

主作用と副作用

薬が必要なのに、副作用が怖いと飲まない人がいます。でも薬は人間が健康に生活するために生まれたものです。極端に怖がることなく、人間の知恵を働かせ上手に使うことが一番です。

では、副作用とはなんのでしょうか、薬には、主作用というのがあり、その薬がどんな症状や病気に使われるか予定された作用で、通常薬の効能書に書いてあります。しかし主作用の予定外の作用をあらわすことがあります。それが副作用と言われています。

副作用は、必ずしも危険だとか怖いというものではなく、同じ薬でも、ある病気の治療には副作用でも、別の病気では主作用のこともよくあります。

また副作用は通常の量を使った場合に表れてしまった場合をいい、量を超えて使い別の作用が出た場合は、厳密には中毒の範疇に入ります。

副作用という言葉だけに怖がらず、どんな作用が出るのかをよいく知りその作用が危険な作用かどうかよく判断し薬を上手に使いましょう。いずれにしてもかかりつけの医師や薬剤師によく相談して使うのがベストです。